

○今回第一種使用承認申請が出された遺伝子組換え生ワクチンの概要

【名称】

「ニューカッスル病ウイルス由来F蛋白遺伝子導入マレック病ウイルス1型207株 (NDV-F、Herpesviridae Alphaherpesvirinae Mardivirus Gallid herpesvirus 2 (Marek's disease virus serotype 1)) (セルミューンN)」

【承認取得者】

財団法人 化学及血清療法研究所

【概要】

1. 当該遺伝子組換えウイルスは、採卵鶏、食用鶏を対象としたニューカッスル病ウイルス (NDV) とマレック病ウイルス (MDV) 感染症予防のための遺伝子組換え生ワクチンの成分である。
2. 宿主である鶏に対しても明らかな病原性は示さないことが知られている、健康な鶏から分離された弱毒 MDV1 CVI988 株に、NDV の感染防御抗原であるF (Fusion) 蛋白遺伝子の発現カセットを挿入している。
3. 当該遺伝子組換えウイルスは、核酸を水平伝達する能力は大きく低下し、感染は成立せず、核酸を水平伝達する性質はないものと考えられる。接種鶏から感染性を保持した形では排泄されないため、ワクチンとして接種された鶏の体内から環境中に出ることはない。
4. 当該遺伝子組換え体ウイルスは、ヘルペスウイルスであるMDV1の性質により、孵化直後のひなの頸部皮下に一回接種するのみで、MDV及びNDVに対して終生免疫を鶏に付与することが可能である。
5. マレック病ウイルス (MDV) をベクターとして開発された鶏を対象とした類似製剤が海外で使用されている。